

福島子ども保養プロジェクトin おかやま 開催報告

昨年発生した東日本大震災と福島第1原発事故から1年7か月が経過しました。今尚福島県では、多くの方たちが避難生活を強いられ、また普段のくらしを取り戻すことが出来ていません。特に原発事故による放射性物質の除染は進んでいなく、住んでいる人たちの生活に大きな影響を与えています。

子どもたちの被ばく積算量を心配する保護者の気持ちにこたえるために、週末や長期の休み期間中に低線量の地域で過ごす活動として、福島県生協連と一緒に「福島子ども保養プロジェクトinおかやま」を開催いたしました。おかやまコープ、岡山医療生協、倉敷医療生協、津山医療生協の共催で、子どもたちの放射能被ばくの低減化とストレスの解消を目的に、10月6日から8日の2泊3日で福島から10組26名の親子を迎え入れ、楽しいひとときを過ごしてもらいました。

初日 岡山駅での出迎え 岡山後楽園と幻想庭園を散策



福島からきた親子をおかやまコープ、岡山医療生協の組合員、職員が出迎えました。長旅での疲れと少し緊張しての到着となりました。



後楽園で鯉に餌をあげる子どもたち

2日目 全員が備前焼に挑戦。

2日目は、岡山城天守閣に登ったあと、全員が備前焼に挑戦しました。初めての体験で、思い思いの作品を楽しく作ることができました。外にでると甲冑姿の人たちの鉄砲の音でびっくり的一幕も。

鷲羽山ハイランドでおもいきりあそんで



倉敷医療生協の組合員さんも参加して、鷲羽山ハイランドで思い切り遊びました。夏日となった気温の中でも、子どもたちはトランポリン、観覧車など次々と乗り物にのったり、ローラースケートを行ったりと元気いっぱいの姿を見せてくれました。

ウェルカムパーティー 組合員さんとの交流 方言で盛り上がる

岡山県のマスコットキャラクター“ももっち”と“うらっち”が駆けつけてくれ、全体を盛り上げてくれました。また、子どもたち一人ひとりに、もも太郎のキーホルダーをプレゼントしてくれました。

おかやまコープ、岡山医療生協の組合員さん、職員が参加して福島の親子との交流をしました。

方言の伝達ゲームを通じて大変盛り上がり、楽しいウェルカムパーティーを過ごすことができました。



笑顔いっぱいの福島の親子

3日目 倉敷美観地区を散策

倉敷医療生協のしらかべ支部の組合員さんが迎え、案内をして回ってくれました。また、日頃体験できない人力車にのったり、渡せ船にのったり、地図をみながら、散策を楽しみました。

福島への帰路に

たのしい3日間を過ごし、福島への帰路につきました。5時間30分かけて帰ります。岡山医療生協、おかやまコープの組合員、職員が交流会の話などしながら、見送りしました。

除染が進まず心配、でも少しずつ変わってきている。

「昨年の夏は、子どもたちの肌はまっしろだった。夏でも長袖で過ごし、クーラーのない教室で窓を閉め切って授業をしていて可愛そうだった。外で遊べなかった。」

「現在学校は除染が進むが、家のまわりなど地域ではほとんど出来ていない。昨年と放射能濃度はあまり変わっていないのに、子どもたちは我慢できなく、外で遊ばしている。見えないだけに心配で」と福島での生活を語ってくれました。「でも今年になって、少しずつ変わってきている。福島が少し元気になってきたかな」とも。

たくさんの「笑顔」を残してくれた3日間

今回の3日間の感想で「中身がたくさん詰まって様々なことを体験できて良かったよ」子どもたちからは「たのしかった」と言葉を残してくれました。遠く岡山から福島の人たちの「笑顔」を望んでいるたくさんの人たちがいることも感じてもらえたと思います。

復興とともに生活再建が何より大切であること、そして大きく遅れている除染を早く進める必要性があります。まだまだ支援が必要です。たくさんの笑顔を残してくれた3日間でした。協力頂いた組合員の皆さん、職員の皆さんありがとうございました。